



町内在住の書家

奥田 秋湖 さん

【プロフィール】

おくだ しゅうこ
昭和45年、栗山町日出に生まれる。5歳の時から筆と墨に触れ、その後小学校教員として働いたが、書や子育てなどに専念するため、平成25年3月退職。同年9月に自宅ギャラリーで個展を行い、現在も書家として活躍中。本名は尾形修子。

町内湯地地区の丘陵地帯にギャラリーを構えて14年となる奥田秋湖さん。町内でも数少ない書家としての人生を振り返ってくれました。

書道教室がきっかけ

奥田さんは、5歳の時に両親の勧めで日出地区の書道教室に通っていたことがきっかけで書道を始めました。北海道教育大学旭川分校(当時)書道研究室を卒業し、教員として勤務。35歳で湯地に自宅ギャラリーを構えました。現在も看板や表札をはじめ、昨年開園した「栗山めぐみこども園」の看板の筆文字・イラストを手掛けており、町内外を中心に精力的に活動しています。

自由な作風が評価されて

高校時代の作品が全国準大賞に輝くなど、これまで数多くの表彰を受けているという奥田さ

ん。大学卒業後、自由な作風を評価されたことがきっかけで、平成7年に旭川市で初めて個展を開催。「教え子や学生時代の恩師など、関わりのあった方々が見に来てくれた時はとてもありがたいと感じました」と話していました。

今後の抱負を聞くと「教室に来ている生徒さんはもちろん、多くの方に書道の楽しさ、筆のおもしろさを知ってってもらえたらうれしいです」と話し、「自分のペースで他の作家さんと新しい作品を作っていけたらと思います」と意気込みを力強く語ってくれました。

【今後の予定】(38頁参照)

3月27日(水) アート書道体験教室

【問い合わせ】

メール：shushu-beer@beige.plala.or.jp

編集担当者のひとりごと

▼先日、元広報マンでもある私の上司からこんな言葉を頂きました。「広報は情報を文字でただ伝えるだけでなく、編集者の伝えたい思いやメッセージを込めて掲載することが大切」ということ。編集作業中はこの言葉を聞いた私はいつも以上に強い気持ちで取り組みました。読者にとっては一見、普通の掲載記事であっても実はどこかに編集者の気持ちや隠れている箇所があるかもしれない。そんな面を是非ご覧ください。(伊藤)

▼取材のため、スポーツセンターで行われた少年団の交流のつどいに行ってきました。特に印象に残ったのは前半の講演で説明のあった「アダプテッド・スポーツ(体に障がいがある方や高齢者、子どもや性別問わず誰でも一緒に参加できるような工夫されたスポーツ)」。この普及啓発のためには、障がい者や高齢者に対する理解を深めていく必要を感じました。分野は違いますが、あらためてわかりやすい紙面づくりと情報発信に努めていきたいと思えます。(田畑)